

## 【同窓会報告 34 回生】

## 34 回生、最後の同窓会(第 15 回)開催の記

鈴木 壽一(34 回生)

第 34 回生の最後の同窓会を平成 23 年 10 月 20 日浜松市舘山寺温泉で開催をしました。

今回が最後となったのは本当に残念だった。開催記録を遡ると昭和 44 年卒後 10 年鎌倉で初回を始めた。滝内政次郎校長が元気で参加した。その 10 年後第 2 回を京都高尾で開催した。同窓会の雰囲気は待てないのかその後は 5 年毎の開催になった。それが 3 年後、2 年後になり第 12 回鳥羽市で開催以後は毎年開催になってしまった。第 6 回の北九州小倉での会からは夫婦での参加があり、8 夫婦参加で総勢 27 名の大盛況で“ふぐ”を味わった。しかし、昨年京都での第 14 回同窓会では山田先生を迎えても 9 名となってしまった。卒後を振り返ってみると残念なことに吾クラスは若くしての物故者が特に多い。卒業生は 57 名だったが平成 14 年には 11 名、平成 23 年の今回には 17 名が亡くなってしまっている。卒後 50 年、本人はもとより同伴者にも諸々の事情が生じて参加したくても出来なくなってきた。ともあれそのようなことで第 15 回を最後にしようとなった。

20 日 15:50 浜松駅南口集合。笑顔が次々と改札口を出て来る。宿のバスで舘山寺へ。8 年前に会を開催したホテルの前に広がる浜名湖内浦湾の上をロープウェーで渡り、山上の“浜名湖かんざんじ荘”に到着。山上から眼下に広がる浜名湖全景を見る間も惜しく、荷物を部屋に置き山田先生の最後の講義がイベントホールで始まった。我々 35 回生は先生の最初の生徒である。折しも現在、福島原発事故でシーベルトやベクレルが飛び交っているが、レントゲン単位で教えられた我々には少々違和感がある。そこで先生に最後の授業をお願いした。演題は“放射線単位の変遷”、先生が作って下さった 4 枚プリントを 40 分熱心に再勉強した。



18:30 待っていた懇親祝賀会が始まった。今回は最後の会が効いたのか 3 組の夫婦を入れて総勢 19 名が駆けつけた。会はずいぶんのように物故した 17 名の同級生と 3 月の大震災の被害者へ黙祷を捧げ、遠山君の乾杯の音頭で始まった。4 月 30 日時点での現況報告は各自に渡してあったが、その後の様子を次々立ち上がって話すうちに酒瓶が増えて盛り上がりってしまった。用意した校歌の合唱も忘れて二次会に移った。二次会は遠山君が持って来てくれた高級ブランドーや秋田の石塚君から贈られた銘酒など色々の酒を酌み交わして話し興じた。0:30 散会。最後まで付き合っ下さった山田先生が一番元気だった。

翌日 9:20 遊覧船で湖上をクルーズする予定だったが幹事がもたつき、港に着く前に出航してしまっていた時は遙か彼方に離れてしまった。仕方なく浜名湖を周遊して浜松名物“うなぎパイ”の工場見学にした。お土産を買って航空自衛隊浜松基地の広報館エアーパークを訪れた。若い綺麗なガイドが館内を説明、案内してくれた。戦闘機のコックピットに座ったりして大いに楽しかった。

12:30 浜松駅にて散会した。幹事として今回最後をどのように味わってくれたかと思っているが、宴途中で後藤正季君が 2 年毎に同窓生の消息たよりの世話役を引き受けてくれることになった。楽しみにしている。

参加者 山田勝彦先生、縣 祥元、井内政男、石黒信夫夫妻、稲井 敬、宇佐美政栄、  
金口 稔、後藤正季、更科俊一、白井直器、鈴木壽一、園部諭夫妻、遠山坦彦、  
中澤宏吉、三吉凡夫、山持 誠夫妻



以上

---

\* 通巻 202 号 2012 年 1 月 10 日発行(H23-No.4)より